

日本文學教育導入動漫教材的意義與可行性
——以《青澀文學》系列〈蜘蛛之絲〉與〈地獄變〉之教學實踐為探討對象——

張 桂娥

東吳大學日文系助理教授

摘 要

目前台灣各大學日文系或應用日語系普遍開設文學課程，提供文學教材輔助高階日語學習者深化日語學習成效，同時拓展學習者文化視野，蓄積對日本文化認知的廣度與深度。近幾年研究者實施日本文學教育的對象，以 90 年代前後出生的大學生為主。身為文學教育者，面對這群成長過程便接受卡通動漫等影像文化薰陶之網路世代學習者，發現若堅持以傳統教學模式——重視文字修辭講解與文本分析方式傳授意境之美的單向式解說教學，將面臨重大挫折。因為習慣數位化影像生活的新世代學習者，其文字想像力與讀解能力（包括母語與外語），已遠不及活字文化盛行年代的一般青年水準，更遑論要求這些學習者用原文精讀詞藻艱深的日本近代名著。

有鑒於此，研究者積極找尋有關日本文學教育的視聽覺多媒體教材，同時廣泛閱讀文學教育研究文獻以建構文學教育方法的新思維。在尋求解決方法的過程中，研究者意外發現日本文學教育界同樣也面臨新世代學習者欠缺文字閱讀經驗而遭遇困境的窘況，也積極展開補救的配套措施；而許多文化工作者也開始投入創意，製作一系列以文學作品為主題的動漫畫作品，提供過度倚賴映像文化的年輕人近距離接觸文學作品的機會。

研究者近年來於「日本小說選讀」「日本名著選讀」課，先後以芥川龍之介短篇作品〈蜘蛛之絲〉〈地獄變〉為文本，佐以動漫片《青澀文學》（2009）系列〈蜘蛛之絲・地獄變〉為輔助教材，實施試驗性教學。本論文將以〈蜘蛛之絲〉〈地獄變〉之實際教學經驗與紀錄教學成效之相關資料為研究對象，探討日本文學教育導入動漫教材的意義與可行性。希望藉此獲得具有正面意義的經驗值，對日本文學課程教材設計與教學法之質性研究有所助益。

關鍵字：文學教育，動漫教材，青澀文學，蜘蛛之絲，地獄變

アニメ化された日本文学教材利用の意義と可能性 —アニメ『青い文学シリーズ』「蜘蛛の糸／地獄変」の授業実践事例を中心に—

張 桂娥

東呉大学日本語学科助理教授

要 旨

台湾高等教育機関の日本語学科（応用日本語学科と応用外国語学科日本語専攻も含む）で、日本語基礎科目（読解・文法・会話・聴解）とともに文学関連科目を開設するカリキュラムが多く見られる。文学教材を日本語学習教材として活用するコースデザインには、文学教材が上級日本語学習者の日本語学習成果の深まりや日本文化に向ける視野の広がり、つまり日本文化への深い理解と真の日本語力とを備えた人材の育成に効果的であるという期待が込められている。

ここ数年、大学で日本語教育を受ける対象は、生まれてからマスメディアなどの映像文化に慣れ親しむ、いわゆるデジタルネイティブ（九〇年代以降誕生された大学生）が主流である。そのため、日本文学講義の進め方も、活字テキストを教師主導の講読形式からマルチメディアの視聴覚教材を積極的に導入する学習者主体の発表形式にシフトしつつある傾向に強いと、複数の実践研究に裏付けられている。

本稿は、稿者が担当した「日本小説選読」講義で、芥川龍之介「蜘蛛の糸」「地獄変」をテキストに用い、文学アニメ『青い文学シリーズ』として製作されたDVD教材「蜘蛛の糸／地獄変」を副教材として実施した授業の実践報告である。それに基き、受講生のアンケートや評価課題として提出されたレポートを分析した上、アニメ化された文学教材を導入した学習効果やアニメを日本文学教材として活用するメリットと可能性について考察した。こうした授業実践事例を手がかりに、アニメをはじめとするマスメディア経由で入手できる映像教材を、異文化理解を目指す日本語教育に応用する際の留意点と限界を見極めると同時に、日本語学習教材としての映像教材の評価の多元化に寄与できるだろうという結論にたどり着いた。

キーワード：文学教育、アニメ教材、青い文学、蜘蛛の糸、地獄変

The Prospect for Using Animation as Teaching Materials in the Japanese Literature Course: “Spider's Thread” and “Hell Screen ”in the Animation Series of “Blue Literature Series”

Chang, Kuei-E

Assistant Professor, Department of Japanese Language and Culture

Soochow University

Abstract

The so-called digital natives (university students born after the 90s) who have been familiar with the mass media such as video culture since they were born have become the main subject of the Japanese education for decades. Therefore, many researches have indicated that the reading materials of the Japanese literature course have been shifted from printed text lectured by the lecturer to the multi-media materials presented by the learners.

This paper is a practical report on how I utilize Akutagawa Ryūnosuke's “The Spider's Thread” and “Hell Screen” in the anime series “Blue Literature Series” as the supplementary material in the courses of “Selected Japanese Narratives” and “Selected Readings in Japanese Literature.” In analyzing the students' questionnaire and their evaluation reports of the literature works discussed in the class, I try to examine the possibility as well as the learning effect of utilizing anime as teaching materials for the Japanese literature course. Through this exercise, I intend to look into the concerns and limits of using multi-media such as anime in the course for the purpose of enhancing cross-cultural understanding. Hopefully, this teaching experience could benefit not only the curriculum design of Japanese literature course but also the qualitative research of teaching method.

Key words: Literature education, anime as teaching materials, “Blue Literature Series”, “The Spider's Thread”, “Hell Screen”

アニメ化された日本文学教材利用の意義と可能性¹ —アニメ『青い文学シリーズ』「蜘蛛の糸／地獄変」の授業実践事例を中心に—

張 桂娥

東呉大学日本語学科助理教授

1. はじめに

稿者は2006年9月より、所属大学の日本語学科で文学関連授業（日本故事選・日本小説選読・日本名著選読・日本近代文学史）を担当し、2014学年度現在で9年目を迎えた。担当講義の実施対象も80年代後半生まれのY世代²から90年代生まれのZ世代³に変わり、ひとくりにネット世代⁴としては見過ごせない世代差に気づき、ジェ

¹ 本稿は、2012年3月24日に「2012東呉大學外國語言文學與文化校際學術研討會—專業外語之教學與研究—」（東呉大学外国語文学部言語文学と文化学際シンポジウム 於東呉大学外双溪キャンパス）において行った口頭発表の原稿「日本文学教材としてのアニメの可能性と行方—日本テレビのアニメ『青い文学シリーズ』「蜘蛛の糸／地獄変」を中心に—」に、加筆・修正を加えたものである。

² アメリカでは、1975年から1989年までに生まれた世代で、日本ではポスト団塊ジュニア世代が相当する（「Y世代」デジタル大辞泉、<https://kotobank.jp/word/Y%E4%B8%96%E4%BB%A3-670032%E3.83.87.E3.82.B8.E3.82.BF.E3.83.AB.E5.A4.A7.E8.BE.9E.E6.B3.89>を参照、2014-11-22検索）。台湾では、民国の元号にちなんで「七年級」と呼ばれる世代で、きわめてストレスに弱いイメージが社会に浸透されたため、「いちご族（草莓族）」というマイナス的レッテルが貼られた新人類を指す。

³ 台湾では、前記した「七年級」の場合と同じく、Z世代の若者を民国の元号にちなんで「八年級」と呼ばれるが、「いちご族（草莓族）」よりもさらにストレスに弱いので、「ピーチ族」「水蜜桃族」じゃないかと揶揄されるが、まだ定着した通称が見当たらない。ただ、2003年に出版された『人小錢大、吞世代：一年影響全球一兆八千億美元消費的小巨人』（烏汀・林斯&派翠西西著、台北：商智文化、2003-07-21。原著：Lindstrom, Martin/ Seybold, Patricia B./Kogan Page Ltd『Brandchild：Remarkable Insights into the Minds of Today's Global Kids and Their Relationships with Brands』（2003-03、タイトルの日本語訳：子供向けブランド戦略；日本語訳未出版）が話題を呼び、台湾のマスコミでは一時期「吞世代」として紹介されたブームもあったという。アメリカでは1992～2010年生まれの若者層、正に産まれた時からインターネットに囲まれたデジタル世代を指すキーワードとして利用されているが、日本では1985-1991(1992の説もある)年生まれをさすことが多い（「ジェネレーションZ世代を読み解くインフォグラフィック」サイト名：SEO Japan。以下のリンク先を参照、2014-11-22検索）。

(<http://www.seojapan.com/blog/generation-z-infographic>を参照)

⁴ 情報化の進んだ1977年以降に生まれ、インターネットを巧みに使いこなす世代。（亀井肇の新語探検、ジャパンナレッジ（オンラインデータベース）、入

ネレーションギャップを痛感している日々である。

そして昨今、いわゆる「デジタルネイティブ（生まれつきデジタル）」世代⁵を大学新入生として迎えることになり、彼らがお馴染みのデジタル技術の片鱗もない活字で綴られたアナログな文学ワールドをどのように伝えたらいいかを考えると、思わず嘆きたい気分にかられる教師も少なくない。しかし一方、教育現場に携わる教師たちの意識変革や指導法の工夫次第で、デジタルされた時代に適応する日本文学教育のモデル構築にチャレンジできる良い機会ととらえることもできよう。

2011 年にあるプレゼンテーションをベースにした演習形式の小説授業で、文学テキストを読了した学生に、作品からイメージしたものを画像形式で再現させたら、回収されたコメントシートに教師の想像を遥かに超えたビジュアル・ワールドが繰り広げられているのに驚かされた。アニメキャラ風の主人公やマンガタッチのイラストで描かれた名場面、実に丁寧かつ見事に描き上げているではないか。シンプルなスケッチもカラフルな挿絵も、描いた学生の個性と感性が光り、悩みを抱える教える側の心の闇を照らす輝きのようなものさえ感じた。実際、台湾の日本語文学の教育現場でも、挿絵を学習シート(リアクションペーパー)に取り入れた実践報告が散見される。詳細は「日本童話選読」で効果的な学習成果を挙げられた王(2014)の論文をご参照されたい。

実は、今二十歳前後の大学三年生が生まれた直後に、台湾では日本文化および日本の放送の解禁によって哈日族⁶と呼ばれる若者層が誕生し、日本文化好きブームという社会現象が起こった。彼らが物心ついたときから、日本から流入したカラオケ、マンガ、アニメ、テレビゲーム、テレビドラマ、J-POP、ファッションなど、いわゆる

手先<<http://www.jkn21.com>>、2014-11-22検索)

⁵ 生まれたとき、または物心がつく頃にはインターネットやパソコンなどが普及していた環境で育った世代。(デジタル大辞泉、ジャパンナレッジ(オンラインデータベース)、入手先<<http://www.jkn21.com>>、2014-11-22検索)

⁶ 1996年哈日杏子氏が書いた4コママンガ集『早安!日本(おはよう!日本)』が人気を呼び、「哈日症(日本大好き病)」という言葉が台湾に広めることをきっかけに、「哈日族ブーム」が火付けられた。哈日杏子のブログ <http://harikyoko.wordpress.com/> を参照(2014-11-22検索)

サブカルチャー（日本の大衆文化）は、すでに台湾で根付いている。マスメディアを通じてお茶の間に届いた文化コンテンツを、空気や水のように当たり前のように摂取してきた彼らは、刺激の強い視覚映像に慣れ親しんだ故、読書離れや活字離れなど深刻化していくのはいうまでもないが、その代わりに、映像作品に関連する情報を積極的に取り込む習慣が身についたため、視覚的画像を読み解く能力もビジュアル表現能力も非常に強いわけである。

熊野(2010：P91)は先行研究を踏まえた上、「海外のさまざまな地域において日本語学習を始めるきっかけの7～8割がアニメ・マンガであるという傾向が見られるとともに、日本語学習への肯定観や学習継続率の高さなど、動機付けとしての役割りも確認されている」と指摘した。国際交流基金(2011)の調査報告書によると、全世界に広がる日本語学習者の学習目的として、「日本語そのものへの興味」(58.1%)を筆頭に、「コミュニケーション」(55.1%)、「マンガ・アニメなどに関する知識」(50.6%)、「歴史・文学等に関する知識」(47.4%)の順になっているが、高等教育の場合は、「将来の就職」(68.1%)、「歴史・文学等に関する知識」(62.9%)、「政治・経済・社会に関する知識」(51.5%)が高い割合を示している⁷。

以上のように、アニメやマンガなどのポップカルチャーに対する関心も、歴史・文学に対する関心も、日本語学習の重要な動機の一つとなっていると判断できよう。2009年に実施された調査の結果に基づき、国際交流基金は、「アニメ・マンガを日本語学習の動機付けとして活用する」目的で、日本語教育事業としての「アニメ・マンガの日本語」Webサイトの開発・立ち上げ及び運営に乗り出し、全世界の日本語学習者に向けて、グローバル規模のEランニングプログラムの展開に躍起しているという(熊野・川嶋：2011、P105)。

稿者も日本語教育界のこうした最先端的動きに触発されて、アニメと文学という二つの強い動機付けを合体させ、映画・ドラマ・ア

⁷ 2009年に実施された国際交流基金の調査と違い、アニメや文学などの細かい項目は選択肢に入っていないが、交流協会(2010)の調査では、台湾の日本語学習者の主要な目的は、「日本語という言語そのものへの興味」「日本文化に関する知識を得るため」と指摘している。稿者が講義を受けた学生を対象に実施した聞き取り調査では、日本語に興味を持つようになったきっかけは、アニメ・まんが・J-POPなどサブカルチャーからの動機付けが強い結果を得た。

アニメ化された日本文学作品の映像教材の導入にチャレンジした。日ごろ日本文化コンテンツに敏感であるデジタル世代の日本語学習者の強みを生かしながら、モノクロの活字世界に目を光らせるための授業プランのデザインを試みた結果、2009年に公開されネットでも話題を呼んだ『青い文学シリーズ』⁸「蜘蛛の糸／地獄変」を選定し、試験的授業を実施することに踏み切った。

本稿は、稿者が担当した「日本小説選読」講義で、芥川龍之介「蜘蛛の糸」「地獄変」⁹をテキストに用い、文学アニメ『青い文学シリーズ』として製作されたDVD「蜘蛛の糸／地獄変」を副教材として実施した授業の実践報告である。

それに基づき、受講生のアンケートや評価課題として提出されたレポートを分析した上、アニメ化された文学教材を導入した学習効果やアニメを日本文学教材として活用する意義と可能性について考察したい。また、こうした授業実践事例を手がかりに、アニメをはじめとするマスメディア経由で入手できる映像教材を、異文化理解を目指す日本語教育に応用する際の留意点と限界を見極めると同時に、日本語学習教材としての映像教材の活かし方や評価法についても探ってみたい。

2. 日本語教育における文学教材のあり方

2.1 外国語教育における文学教材の役割について

中村愛人(2004:P115)は、英語の学習教材として、文学教材の持つ主な利点を「1) 様々な style の authentic な言語材料を提供できる。2) 言語能力 (literary competence) を発達させる。3) 個人の成長や人間性を豊かにする。4) 文化学習に効果的である。5) 作品への興味から学習の動機づけになる」と挙げた。森川ら(2010)は、日本語学科の上級学習者ないしは上級レベルを目指す学習者にとって、文学作品の文章が読解教材のテキストとして、様々な学習活動をするための題材として適当であるという観点が提示された。

⁸ 日本テレビ制作、2010年6月25日発売

⁹ 使用したテキスト：角川文庫『蜘蛛の糸・地獄変』（芥川龍之介、角川書店、1989）

長い引用になるが、その理由は、文学作品の文章が、

「教材本文の理想的要素（意義深いテーマがあること、ストーリーが楽しめること、本物感があること、日本語としての質が高いこと、日本人と話題を共有しやすいこと、など）を備えていることに加えて、作品のテーマや文化的背景などを学習活動で取りあげることにより教育的価値が認められるということが大きい。作品が性・死・愛など、国や民族、文化の境界を越えた人間存在そのものの問題をテーマにするものであれば、それについて深く考え語り合う価値も普遍的に認められよう。それと同時に、作品の文化的背景を知る（あるいは発見する）喜びもあり、比較文化論の視点からの考察や議論の対象にもなりやすい」（森川ら：2010、P7）と分析した。

また文学作品を教材とすることのメリットについては、同論文では、森川(2009)の報告(口頭発表)に言及された知見を以下のようにまとめている。

■学習過程におけるメリット：学習者が「本物の日本語に触れている」という喜びを感じられる、翻訳や映像化作品(映画、テレビドラマ)を補助的手段として用いることが出来る、作品(読後レポートや創作)や読書会など、生産的な学習活動に発展させやすい。■学習後に得られるメリット：学習者が一編の作品を読み通したという満足感と自信を得られる。(森川ら：2010、P7-P8)

日本語の学習者にとって、人間性を描く文学作品はやはりよい教材であることを実証した董・三上(2003)をはじめ、日本・台湾を含む海外における日本語教育の現場でも、日本文学を導入した授業実践例が多数あり¹⁰、そのうち映像化・アニメ化された文学教材について考察した先行文献も数編見られる¹¹が、テレビアニメ『青い文

¹⁰ 中・上級者向けの読解教育に小説教材を取り入れた絹川(1989)、吉田・山本(1993, 1994, 1995)、岡本(1998, 1999)、竹口(2003)、江田ら(2005)、土谷(2007)の実践をはじめ、随筆や詩歌を導入した立川(2008)、工藤(2008)、国語教育の読書指導法を活用した池田(2003, 2004, 2005, 2006)、文学表現力の向上や異文化理解力の促進に文学教材を採用した坂東(2007)、山路(2006)らの試みなど多数行われた。紙幅の制限で参考文献目録(*のあるもの)をご参照下さい。

¹¹ アニメをはじめ、視聴覚的手法を用いた文学教材の活用法を提案した三門(2003)、文学素材を問わず日本語教材としてのまんが・アニメの可能性に言及した萩野(2007)、牧野(2008)、映画・テレビ番組など教材化された映像メディアを学習素材としての役割と可能性を考察した小原(2008)などがある。

学』シリーズを対象とした日本語教育関連研究は管見に入る限り、見当たらない。

2.2 台湾高等教育機関所属の日本語学科における近現代日本文学教科事情

台湾の高等教育機関に設置された 42 ある日本語学科(応用日本語学科・外国語学科日本語組も含む)の科目授業プラン(2010&2011 学年度)を調べた結果、童話・小説・名著など近現代文学講読関連講義を実質に開設した学校は 26 校¹²である。そのうち 3 教科(含)以上開設した大学は東呉をはじめ 4 校あり、2 教科・1 教科を開設した大学はそれぞれ 15 校・7 校である。

応用系以外の日本語学科は必ずカリキュラムに盛り込む傾向にある現状から、台湾の日本語教育における文学教育の役割が強く期待されていると見受けられよう。文学教材を日本語学習教材として活用するコースデザインには、文学教材が上級日本語学習者の日本語学習成果の深まりや日本文化に向ける視野の広がり、つまり日本文化への深い理解と真の日本語力とを備えた人材の育成に効果的であるという期待が込められているともいえるだろう。

台湾日本語学習者向けの文学教育の実際と現状について論じた先行研究には、TAE による読解授業を試みた林(2007&2012)、「相互教授法」と「協働的学習」を文学教育に導入した小林(2010)、文学講座受講生が援用した「読解ストラテジー」の実態を究明した小林(2013)など、カリキュラムの比較的充実した東呉大学での授業研究及び授業実践報告が多くみられる。いずれも日本語教育における文学授業の質的向上に繋がる重要な研究成果であり、文学教育の実態を把握するための貴重な実践記録であるが、ご参照されたい。

2.3 文学教材としての「蜘蛛の糸」と「地獄変」

「青い文学」政策委員会「解説」によると、「蜘蛛の糸」、「地獄変」のいずれも、芥川龍之介によって書かれたのは大正七年、芥川が最も旺盛な執筆活動を見せていた時期であった。多彩な創作でその才を余すところ無く発揮し、私生活では塚本文と結婚。公私と

¹² 実験授業を実施した 2012 年 3 月に調査した結果による(付録 1 をご参照)。カリキュラムの記載に関わらず、公開された授業プランの検索で当該年度未開設と判断された 16 校はいずれも応用日本語学科(専攻)のケースである。

もに多幸な時期の芥川作品の佳麗をここに見る事ができる¹³という。

『因果の小車』(ポール・ケーラス)を典拠にした寓話風の童話作品「蜘蛛の糸」は、悪人犍陀多の貪欲と我執に囚われた心を戒める、子ども向けの教訓めいた話として広く受け入れられているが、「いかなる悪人といえども、生涯に一度は善根の機会があり、それが救済の契機になる。しかし、その救済をみずから閉ざすのもまた人間である、というテーマは明確だが、一篇の童話として見るとき、犍陀多のエゴイズムに絶望した釈迦の＜悲しそうな顔＞には問題がのこる。……童話としては無慈悲にすぎる収束」¹⁴と評されたように、多様な読み方を提供できる珠玉の作品である。

一方、芸術至上主義者の悲劇を描いた「地獄変」は、「良秀の狂的な姿を通して、現実的なものの全否定のうえに芸術至上主義的な世界を樹立した力作で、芥川の代表作の一つである。芸術家としての作者自身の覚悟を表明した作品であるが、最後には良秀を自殺させており、芸術至上主義と倫理との問題を提示している」¹⁵と指摘されたように、美意識や死生観に象徴される日本文化への理解を深めてくれる日本文学傑作の一つである。

この二作は、「物語に全面的には出て来ない語り手によって描かれ、描写という点で共通するものがある。登場人物に感情移入させて物語を語ろうというのではなく、透徹した視線を持って彼らの我執そのものを浮かび上がらせようとする」¹⁶文体の様式的な美を通して、芥川独自の文学世界の構成や演出の妙を読者なりに吟味することもできるのではないか。

池田(2004)は、「コミュニケーションの題材としての文学教材」、「文化理解のための文学教材」、そして「異なる読みを提供」できる文学教材こそ、日本語教育に求められる理想的文学教材のあり方と指摘した。この二作品が文学教材としての役割を確実に果せることはいままでもない。

¹³ 「青い文学」政策委員会「解説」『蜘蛛の糸 地獄変』(DVD付録、非売品、マッドハウス・日本テレビ放送網株式会社、2010)、p. 3

¹⁴ 三好行雄「作品解説」角川文庫『蜘蛛の糸・地獄変』(注9前掲書)、p. 204

¹⁵ 海老井英次「地獄変」『日本大百科全書、ジャパナレッジ(オンラインデータベース)、入手先<<http://www.jkn21.com>>、(参照 2012-03-12)

¹⁶ 注13に同じ。p. 4

2.4 映像化された『青い文学シリーズ』 「蜘蛛の糸／地獄変」

『青い文学シリーズ』（日本テレビ 2009 年 10 月 10 日～12 月 26 日毎週土曜日深夜1時20分から放送）は日本の文豪らによる不朽の名作群を題材としたオムニバスアニメである。集英社文庫と連携した作品でもあり、同文庫の「ナツイチ」キャンペーンの一環で行われた同社ゆかりの著名漫画家が描いた各小説のジャケット画を、本アニメのビジュアルイメージに用いている¹⁷。

2009 年 10 月 10 日からスタートし、「人間失格」「こころ」「桜の森の満開の下」「走れメロス」「蜘蛛の糸」「地獄変」の順で、12 月 26 日まで計 10 回にわたって放送された。日本テレビの放送が終わった翌々日の 12 月 28 日から読売テレビで再放送され（1 月 5 日まで計 4 回）、その間に（2010 年 1 月 1 日から 1 月 3 日まで三夜連続）アニマックスに早くも再々放送されたというほど、話題を呼ぶ人気アニメ作品である¹⁸。

長い引用になるが、本シリーズの成立をめぐる事情を説明するため、公式サイト¹⁹に公開された制作背景を記しておく。

文豪の名作×人気漫画家による夢のコラボレーションが奇跡のアニメ化！

2009 年は、太宰治生誕 100 周年という節目の年であるとともに、小林多喜二の「蟹工船」など、文豪たちが書き上げた珠玉の名作が次々と映像化されている年である。そんな文学への関心が高まっている中で、大好評を博した集英社の「ナツイチ」で展開されている文豪たちの名作の表紙を、「DEATH NOTE」や「バクマン。」の小畑健、「BLEACH」の久保帯人、「新テニスの王子様」の許斐剛ら人気漫画家たちが描き下ろしたスペシャルカバーが、TV アニメ「DEATH NOTE」や劇場用アニメ「サマーウォーズ」を手がけた日本屈指のクリエイター集団「マッドハウス」の手により、前代未聞のアニメーションとなって登場する！さらに、この奇跡のコラボ作品に「大河ドラマ」や「官僚たちの夏」

¹⁷ 映画データベースallcinemaを参照。（2014. 11. 22検索）

（http://www.allcinema.net/prog/show_c.php?num_c=335109）

¹⁸ 青い文学シリーズ公式サイト（<http://www.ntv.co.jp/bungaku/news.html>）
英語版ウィキペディアにも紹介され、海外でも大ブレイクしたという。

¹⁹ 同前注。

などで抜群の演技力を見せた、あの俳優堺雅人が参加。全作品で主演声優を演じ、さらに作品のナビゲーターとして実写でも登場。

堺雅人が命を吹き込む、葉蔵やメロスとは一体!? 見所満載の作品をどうぞお楽しみください！（下線部＝稿者、以下同。）

『青い文学シリーズ』の「蜘蛛の糸／地獄変」は、集英社文庫『地獄変』（1991年3月）に所収されている芥川龍之介の『蜘蛛の糸』と『地獄変』をカップリングして1時間スペシャルで放送されることになったためか、全くつながりのない二作品を共通したキャラクターら（犍陀多・良秀）によって、あたかも同じ時代背景で繰り広げられた物語空間のように演出される同時に、暗いイメージの持つ原作に斬新な視点と感覚と色彩を持たせた。

公式サイト²⁰に公開された作品の解説は以下のとおりである。

【蜘蛛の糸】世に聞こえた盗賊犍陀多。その傍若無人ぶりは比類なく、権力の中心にいる国王のパレードをも手玉に取るほどだった。

一匹の蜘蛛に慈悲を与えたその帰り、彼はついに国王軍に捕まってしまう。

刑に処され、行き着いた先……そこは彼がかつて殺した亡者どものいる世界、すなわち地獄だった。殺した者に殺され、殺された自分は殺した自分でもあり……連関していく苦しみが、犍陀多を襲う。

そこに降りてきた一本の糸。それこそ、彼を救う救いの手綱だった。

【地獄変】国王にもその実力を認められる稀代の絵師、良秀。彼はある時、王の民を人とも思わぬ専横ぶりに愕然とする。

衝撃の覚めやらぬまま、彼は王から栄華を誇るこの国の絵を描くように仰せつかる。この国……貧しい人間を蹂躪し、貴族だけが栄える、そんな国を、良秀は狂気に取り付かれたが如く描き続ける。

そこに描かれていたのはまぎれもない、地獄だった。さらに良秀は国王に直訴する。

その願いは国王を激しく揺さぶるものだった。

上記した解説の下線部から、制作側は、オリジナル作品に登場しなかった人物（国王・国王軍・民など）を創出したり、架空のシナリオを作り上げたりして、大幅な変更と大胆なアレンジを施したりメ

²⁰ 注 18 に同じ。

ーク作業を経て、1本のアニメ作品に仕上げたことがわかる。

DVD 封入特典「特製ブックレット(計 12 頁分)」に収録された【いちづか監督インタビュー】によると、文学作品の懐の大きさに甘えていた監督は、文学作品をアニメ化していくうちに、「文学の奥深さや、文章の奥深さや、文章独特の描かれ方、文章そのもののクオリティの高さ、内容の研ぎ澄まされた緊張感、そういうものをじわじわ感じてくる……隅から隅まで、隙がない……隙が無い故に突っつけない。でも懐が広いから、やろうと思えば何でもできてしまう。その差がすごく激しいので、本当に翻弄される」と述べて、文章を映像化する難しさと大変さを振り返った。

「言語芸術」としての文学作品における小説と「映像芸術」の映画・アニメ・TV ドラマの関係性をめぐって、「<ことば>で表現されているものを映像化していく際に生起する問題、特に、同じ原作素材を扱った場合に見られる、それぞれの長所・短所をイメージの観点から考えて、その相違点を単に表現メディアの違いということで片付けない」(小菅：1998、P1)という指摘もあるように、アニメという表現メディアを通して文学作品にどういうビジュアルをつけるか、監督それぞれの独特な描き方がある。それを発見するのもアニメ化された文学教材を鑑賞する楽しみの一つではないか。

3. 「蜘蛛の糸」「地獄変」を教材にした文学講義の進め方

「日本小説選読」は、所属大学学部三年生向けに、週二時間で一学年(前期と後期)をかけて実施される唯一文学関連の必修科目である。今回の実践報告は、2011 学年度²¹に筆者が担当した「日本小説選読」(学部三Cクラス)の講義で行われた授業記録によるものである。前期(2011 年 9 月 16 日～2012 年 1 月 13 日)には、児童文学作品を中心に童話・少年小説を教材とした授業を行ない、後期に(2012 年 2 月 17 日～2012 年 6 月 15 日)は、近現代文学の短編小説を中心にグループ発表形式という学生主体のコースデザインにこだわって

²¹ その後、もう一度実験してみる予定も担当科目の調整で過去二学年連続実施することができなかった。今年度 2014 年 9 月に四年生「日本名著選読」授業で履修学生の協力を得て再度実施したが、課題レポートの回収が間に合わないため、今回の報告には収録しないことに致す次第である。

みた。

実施した講義内容の概要を単元別(丸数字)に下記にまとめた。

(太字で表示された部分は「蜘蛛の糸」「地獄変」関連授業の流れ)

前期分の授業プラン

- ①9/16-9/23-9/30-10/7 授業計画の説明(1H)―新美南吉「屁」(7H)
- ②10/14 ★小テスト ※歴史的仮名遣い(旧仮名遣い)の演習
- ③10/21 小テスト&宿題の検討・感想文の書き方の指導
- ④10/28-11/4 宮沢賢治「蜘蛛となめくちと狸」(4H)
- ★11/11 中間テスト
- ⑤11/18-11/25-12/2 宮沢賢治「土神と狐」(6H)
- ⑥12/9 小テスト&文学評論の読み方&研究資料の分析について
- ⑦12/16-12/23 芥川龍之介「蜘蛛の糸」(4H)講読
- ⑧12/29 『青い文学シリーズ』「蜘蛛の糸／地獄変」(字幕有り)
- ⑨2011年1/5 芥川龍之介「地獄変」(あらすじ&読解ポイント)・
期末レポート作成要領・冬休みの宿題について

★1/13 期末テスト

冬休み期間(1/5-2/16)に教室外活動として、文学テキスト「地獄変」を精読した上、Webで『青い文学シリーズ』を鑑賞するように薦めた。

後期分の授業プラン

- ①2/17 後期授業計画の説明&「地獄変」精読成果の確認(グループごとに)
- ②2/24 アニメ再視聴「地獄変」(DVD特番<対談>解説付き)
- ③2/29 文学テキストと映像教材との比較をまとめたレポート
の回収(日本語・中国語の使用は特に制限していない)
- ④3/2「地獄変」(グループ代表による作品の紹介と内容の再確認)
- ⑤3/9 以降の十週間にわたり、5-6人単位で小グループに分けて、プレゼンテーションをベースにした演習形式の教室活動を導入する。教材として取り上げる作品は各グループに任せており、「ピア・リーディング」形式を取り入れた協働的学習活動を中心に授業を進めていく。紙幅の制限で詳述を割愛する。

「蜘蛛の糸」の場合、テキストを先に精読させてからアニメ鑑賞に移るが、ボリュームのある「地獄変」の場合では、アニメ鑑賞の

後、冬休みを挟んで2ヶ月もかけて精読させるように、学習者への配慮が工夫されるという課題付与型の授業プランである。

4. 受講生アンケート調査から見る授業の成果と評価、反省点

4.1 授業評価アンケート調査結果(フィードバック:中国語で記述)

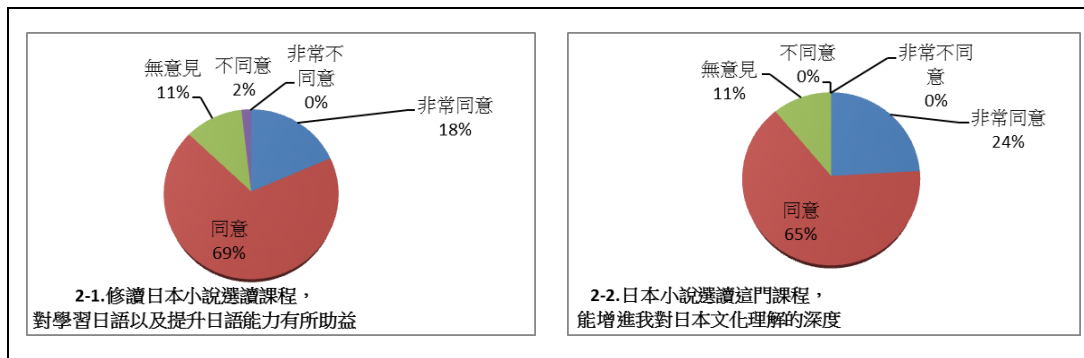
題目	1.性別		2.學習日語經歷					
選項	男	女	4 年以上	3-4 年	2-3 年	未滿 2 年		
人數	7	47	4	16	34	0		
3.日語能力檢定								
N1(一級)	N2(二級)	N3	N4(三級)	N5(四級)	未曾參加	未作答		
6	39	2	0	0	6	1		
4.修習過相關課程		5.小說閱讀量(包含中文&外文)						
是	否	50 本~	30-50 本	10-30 本	0-10 本	沒興趣	不確定	未作答
44	10	15	7	9	10	2	9	2
6. 修讀〈日本小說選讀〉之前，對日本文學(小說)感到								
非常有興趣	有興趣	沒特別感覺	沒興趣	完全沒興趣	未作答			
5	26	19	3	0	1			
7. 修讀〈日本小說選讀〉之前，對日本動漫作品感到								
非常有興趣	有興趣	沒特別感覺	沒興趣	完全沒興趣	未作答			
18	19	15	2	0				
8.開始接觸動漫作品的時期								
幼稚園	國小(1-3)	國小(4-6)	國中	高中	大學	不確定		
21	20	7	4	0	0	2		
9.第一次接觸動漫作品距今								
15 年以上	10-15 年	5-10 年	5 年以下	沒有接觸過	不確定			
18	24	9	1	0	2			
10.上大學之前，每星期平均接觸動漫作品								
20 小時以上	15-20 小時	10-15 小時	5-10 小時	小於 5 小時	零接觸	未作答		
3	3	4	18	24	1	1		
11.上大學之後，每星期平均接觸動漫作品								
20 小時以上	15-20 小時	10-15 小時	5-10 小時	小於 5 小時	零接觸			
4	3	3	10	32	2			
12.第一次接觸日本小說改編的動漫作品時期								
幼稚園	國小	國中	高中	大學	沒接觸過	不確定	未作答	
0	4	7	9	18	4	11	1	
13.欣賞過小說改編的動漫作品後，對日本文學（小說）感到								
非常有興趣	有興趣	沒特別感覺	沒興趣	完全沒興趣	未作答			
4	39	9	1	0	1			

14.有機會再接觸同類作品時，若是風評不錯的名著，您會				
先讀小說再看 影片	先看影片再讀 小說	不介意順序，兩者 都看	只看影片	只看小說
17	10	24	3	0

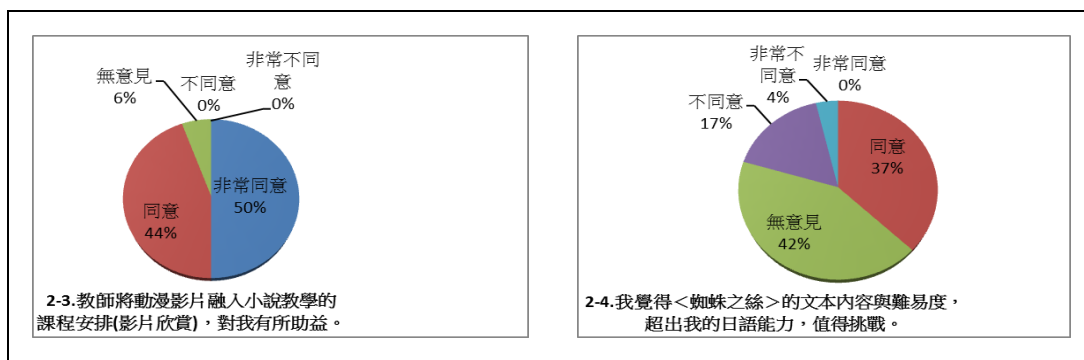
【パートⅠ】の受講生の学習ステータスに関するアンケートの結果を箇条書きにまとめる。

1. 女子学生が九割も占める学習者は、日本語学習歴3年未満で文学関連講義(主に二年生の「日本故事選」)を履修したことがあり、しかもN2に合格した中高レベルの学生が多い。
2. 普段、小説には少ししか興味を持たない学生が少なくないため、日本の小説作品にも半数以上興味を示している。
3. アニメとの接触は小学生3年生(十歳)以前の段階で体験済みの学生が8割を超えているため、アニメ歴が十年以上の学生がほとんどである。大学に入る前と後には、アニメ愛好者の数的変化がないものの、観賞時間数は半減している傾向が見られる。
4. 日本の文学作品から制作されたアニメとの接触は、大学に入る前と答えた18人、入った後と答えた18人で、未体験者か不詳と答えた16人で、それぞれ3分の1を占める。
5. 文学アニメを見た後、もともと日本の小説に興味を示さなかった学生(22人)の半分に当たる11人が興味を示すと答えた。
6. アニメと原作の観賞順について、原作が先にと答えた学生が3割に対して、どちらでもいいと答えた学生が半数に近い。言語映像と映像言語にこだわらずに、どちらでも楽しめればよいと思う学生が主流である。

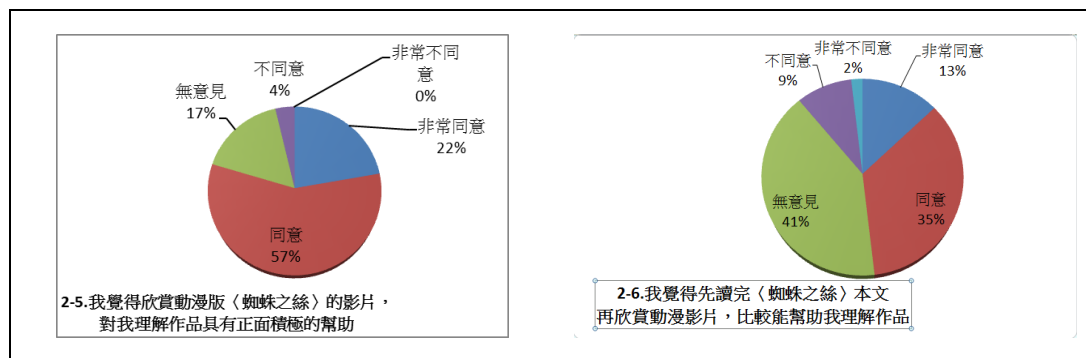
【パートⅡ】日本語文学教育諸般についてのアンケート調査結果の集計及び分析は以下の通り。紙幅の制限で、設問の意味は、回答の解説から読み取れるため、設問の日本語訳は割愛させていただく。



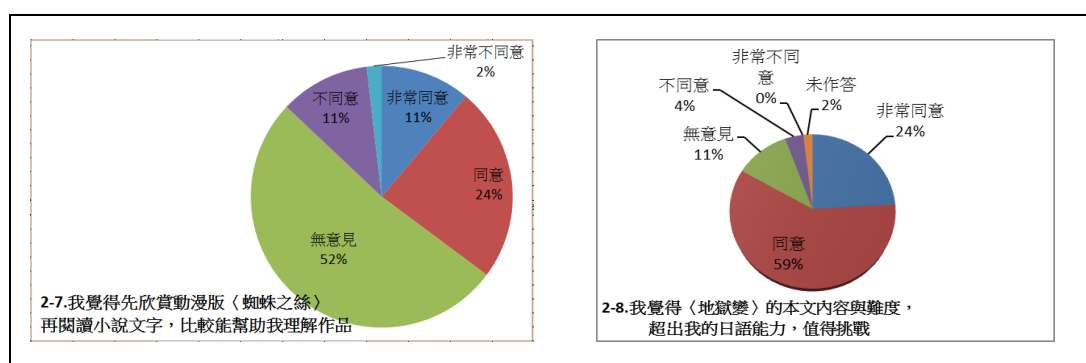
「日本小說選讀」講義を履修することは、日本語の学習と日本語力の向上に役立っていると、日本文化への理解の深まりに役立っていると答えた学生がいずれも9割に近い。本科目開設の目的が学習者に十分理解されていると確認できた結果である。



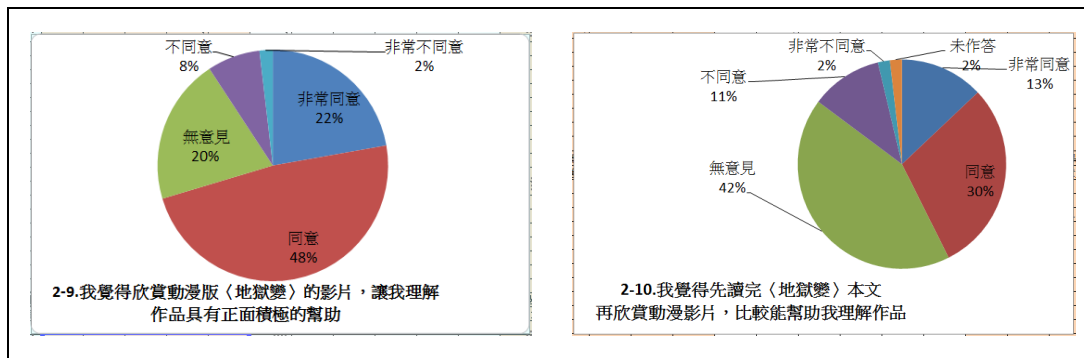
アニメ教材を小説授業に導入した授業プランのデザインは、学習者にとって有益であると答えた学生が94%を超えたのに対し、選択された作品「蜘蛛の糸」の難易度が、学生の日本語能力をはるかに超えたため、チャレンジしたい意欲が刺激された学生が4割未満に留まる。もう少し刺激の与えられるような作品を工夫しないと、今後の作品選択に参考に値する貴重意見といえよう。



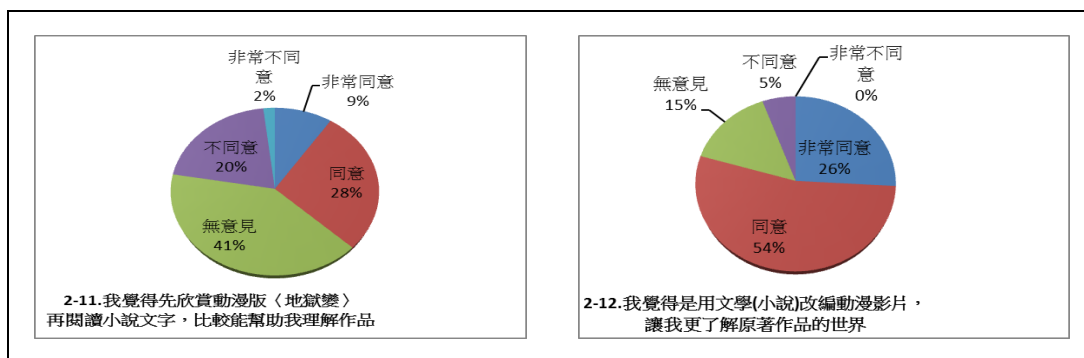
アニメ「蜘蛛の糸」の映像教材が作品の理解にプラス的な効果をもたらしていると肯定した学生は8割に近い。ただし、オリジナル文学作品のテキストを先に精読してからアニメを見たほうが、作品への理解に効果的であると答えた学生は半分ぐらいで、特に意見なしの学生も4割に近い。しかし、それと関連した次の設問「アニメ作品を先に観賞してからオリジナル文学作品のテキストを読んだほうが、作品への理解に効果的である」と答えた学生も3割に留まり、特に意見なしの学生が半数を超えている。どちらも原作へのこだわりはあまりないという反応と言えよう。



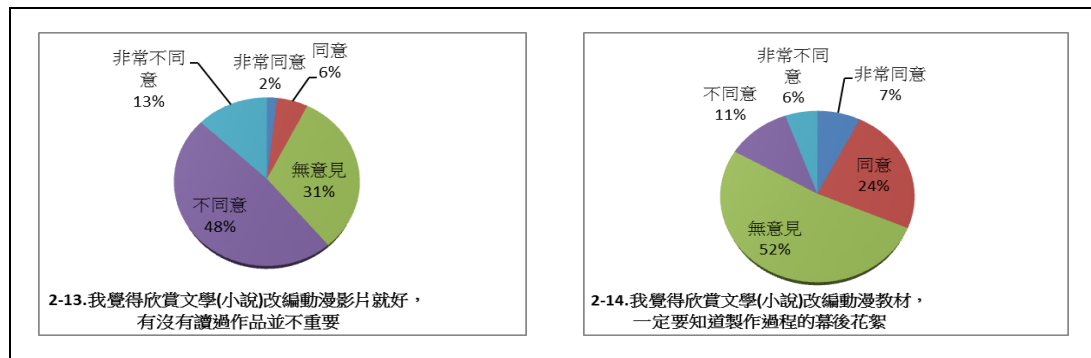
かわって「地獄変」に関する設問であるが、選択された作品「地獄変」の難易度が、学生の日本語能力をはるかに超えたため、チャレンジしたい意欲のある学生がなんと「蜘蛛の糸」を超えて8割強に達した。つまり、N2レベル以上の学生たちは「蜘蛛の糸」よりも長くて難しい「地獄変」のほうに挑戦したい意欲ある学習者だとわかる。今後の作品選択に参考に値する貴重意見に違いない。



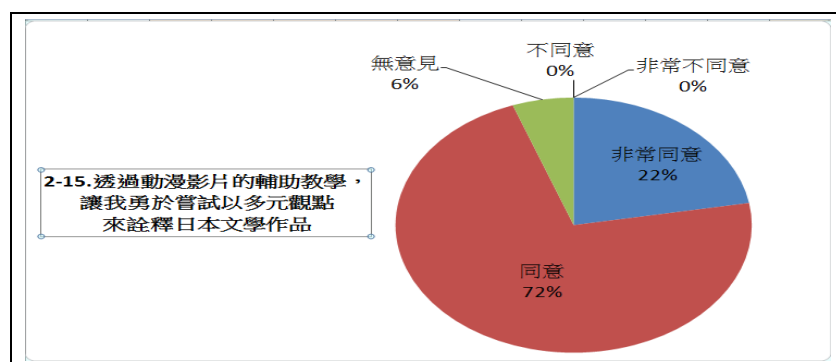
アニメ「地獄変」の映像教材が作品の理解にプラス的な効果をもたらしていると肯定した学生は7割に近い。ただし、オリジナル文学作品のテキストを先に精読してからアニメを見たほうが、作品への理解に効果的であると答えた学生は4割ぐらいで、特に意見なしの学生も4割に近い。しかし、それと関連した次の設問「アニメ作品を先に観賞してからオリジナル文学作品のテキストを読んだほうが、作品への理解に効果的である」と答えた学生も同じく4割に留まり、特に意見なしの学生も4割を占めている。「蜘蛛の糸」と比べて反対意見を持つ学生が二倍に上ったが、どちらも原作へのこだわりがあまりないと言えよう。



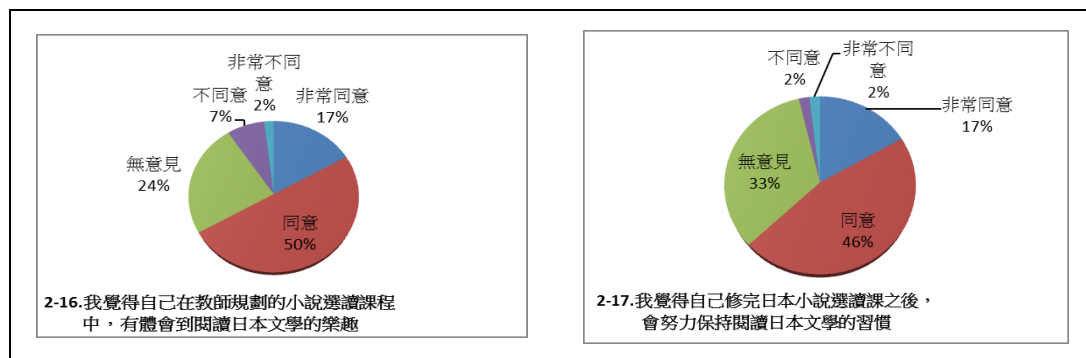
2-12の統計結果から、「蜘蛛の糸」「地獄変」の授業を受けた学生は、アニメ（映像教材）の導入で、原作（言語教材）の作品世界への理解が深まったと答えた学生が8割というおおむね肯定する結果が得られた。



しかし一方、原作を読んでいるかいまいか、アニメに制作された文学アニメのみで満足していると答えた学生は1割すら達していない。反対意見も6割を超えている。つまり、アニメだけでは物足りないという興味深い結果である。文学作品の理解と関係ないが、アニメ制作背景の予備知識が必要かという設問に同意した学生が意外に少ない。アニメを活用する授業の進め方に大きなヒントをくれた貴重な意見である。



そして、アニメ教材を小説授業に導入した授業プラン全体のメリットについての設問であるが、今回の文学講義でアレンジされた一連の授業活動を受けた後、多元的視点から日本文学を解釈・鑑賞するチャレンジ精神を身につけたと答えた学生が94%で、反対した意見が皆無という極めて高い評価を得られ、教師にとっても非常に励まされる実践結果であった。



最後の二問のアンケートは、授業活動終了後の学生の内的変化や動機付けの変化についての設問である。教師がデザインした日本小説選読の講義を通して、日本文学を読む楽しさを体験したかについて、およそ7割の学生が同意した。また、日本小説選読を履修した後、日本の小説を読み続けていきたいと答えた学生が3分の2を占めている。ただ3分の1の学生たちが留保的な態度を示しているため、教師として更なる工夫をする必要性が高いと反省すべき結果として厳しく受け止めている。

4.2 レポートから垣間見た学習成果(中国語で提出されたものの抜粋)

(Y) 不論是小說改編成動畫，或是動畫化為文字，如果沒有兩方都看過的話，實在是難以兩全。只看文字版的人，可能只能靠自己的想像去理解作者想表達的意象，且缺少聲音影像的刺激，可能趣味性會低一些。但是如果只看動畫，對整個故事的理解可能會不夠完整，因為動畫很難完整的描繪故事的全貌。整體而言，我最喜歡的部分是原作。因為看原作才能最真實的了解作者想表達的事情也能最徹底的理解整個故事想敘說的内容，而且也保留了一絲想像的空間，不會讓畫面鎖住自己的想像力。當然，如果小說和動畫能互相搭配著看，那對小說的理解絕對會有很大的幫助，看動畫時，也能配著小說，一一比對文字與動畫的不同之處，這也會是一大樂趣。(下線部＝稿者、以下同。)

(L1) 看完了由名著為基底而製作的動畫，我認為這次的動畫以及文學作品是比較艱深的，不過可能就因為是比較艱深，所以每個人的解讀方式都有所不同，因此我認為這次動畫跟文學作品兩者的差異性還蠻大的，其實我自己個人是很喜歡用動畫的方式去理解一個作品，這樣的方式最大的缺點可能就是有經過把文學作品轉換成動畫的過程，因為有了這個過程，所以可能會加了一些別人的想法進去，無法直接接收到作者本人想傳達的意思，但換個角度想，我們

也能利用這樣的機會來看看別人對於這麼特別的文學作品，他們的想法又是如何，對於一個艱深的作品來說，一定不會只有一種解釋，但因礙於每個人無法在解剖文學作品時能面面俱到，所以這也是欣賞不同種類詮釋的一個機會

(L2)對我來說，要我自己用有深度的文學評論角度去審視這兩部作品，事實上是極為困難的。然而，透過動畫的詮釋，也就瞭解到自己能夠用更具宏觀、非文學性，甚至是形上、哲學的思維去嘗試探究時，那是思想的碰撞，那麼，作為閱讀工具的日語及閱讀『地獄變』小說的動作本身，是確實有果效的。期待跟不同的想法、觀點交流，而因其而得的小小喜悅，或許是小說選這門課，抑或是小說閱讀本身所賦予的回饋之一吧。

(L3)如果要說小說跟動畫哪一個比較好的話，我認為兩個都要看。兩個只看一個的話，都好像缺少了一點什麼。當然，小說是最原版，要了解地獄變這個故事是一定要看小說的。只看動畫的話，就會覺得地獄變就不過是個很大眾的恐怖故事而已，而且還把原作改到體無完膚，可以說是原創不是改編了。可是只看小說的話，就會有很多不懂的地方。畢竟文學要領會的是作者想要表達的意境，還有一些深層意義。而動畫則在這方面擔當了一個重要的輔助角色。

「映像」と「文字」の間に戸惑う学生たちの別れた意見が両極を去来しているように見えるが、小菅(2006:P1)が「言語芸術である文学作品を読解・分析する場合、〈ことば〉や文章表現のレベルを中心的な視座に考察していくことは当然なのだが、〈ことば〉＝“言語”と〈イメージ〉≡“映像”の相関性ということを手掛かりに、違った角度からのアプローチを試みることも、作品の読みを活性化して、テキスト論の可能性を広げていく上で必要な行為である」と述べたように、それも文学作品を堪能する必要不可欠な作業であると確信してよいだろう。

4.3 反省点と今後の課題～さらなる授業改善に向けて～

今回の授業実践活動を振り返ってみると、デジタル世代向けに講義デザインの創意工夫のヒントを得たと同時に、さらなる授業改善に向けて、いくつか改善すべき反省点や新たな課題が発見された。

例えば、文学作品に馴染みのある学習者の場合では、作品選択の基準や、議論を深める授業プランのデザインと教師のファシリテート、文学が苦手な学習者の場合では、学習環境づくりへのサポートとインセンティブの付与に効果的である文学教材開発の工夫など、

それぞれに特有の課題が山積しているが、学習者のモチベーションの有無を配慮した上、それぞれの学習活動に何を取り上げ、どう組み込んでいくべきかについては、まだ模索が続いているのが現状である。次世代を見据えて日本語学習者を取り巻く環境の変化に適應できる文学授業のあり方を真剣に検討しなければならないと思う。

また、アニメ化された文学的映像を教材として積極的に導入する際に、アニメ化された文学教材の映像的言語と本物の文学作品の言語的映像にみられる表現的特徴の相違の解明や、どの作品からどういうレベルの日本語を確実に学ぶことができるのか、また有効な指導案はどのようなものか、その有効性をいかに検証していくのか、という難しさも大きな課題として残ったといえよう。

5. 結び：アニメ化された日本文学教材利用の意義とその可能性

本稿ではアニメ化された文学教材「蜘蛛の糸／地獄変」を副教材として導入した文学授業の実践記録と授業評価について考察した。こうした実験的な授業を通して、日本語教育の一環として行われる文学教育の質的向上につながる授業活動を展開したが、アンケート調査の結果や学生の提出した課題レポートの文面から、文学テキストと映像化されたアニメ教材の併用におおむね肯定的意見が多い一方、『地獄変』のように、原作との違いがあまりにも大きい場合、やはり戸惑いを感じずにいられない声も少なからずある。

つまり、学習者は、アニメという特殊な表現手法によって再構成されたスクリーン映像から受けたイメージと、活字情報を取り込んだ学習者の想像力によって創りだされた作品世界のイメージとの間に、大きなギャップが存在するという事実遭遇したわけである。

そのショッキングな事実を学習者はどう受け止めるかによって、アニメ化された文学教材の真価が問われることになるが、文学作品を「読み解く」という行為をメタ認知の視点からみると、「ストーリーから表現・構成へ」に挑むアニメ制作側の「プロの読み方」も、「ストーリーからイメージ形成・修正へ」を目指す一般読者の「アマチュアの読み方」も、異化された作品世界の全体像を包括的に完成させるために欠かせない重要なヒントだと考えられよう。

魅力あるアニメ化された日本文学教材の利用によって、日本語文

章の表面上の意味から文学作品しか読解できない中級日本語学習者に、歴史的・文化的要素によって織りなされた文学作品の多様な諸相を多角的・複眼的視点から探求し、解明しようとする学習意欲を芽生えさせ、「意欲的に思考する」読解力を身につけさせることが可能であるし、文学教材の力で、「確かな語学力と異文化コミュニケーション力」を育てる日本語教育の目標も効果的に達成できるだろう。

◆参考文献◆（著者名の五十音順）

（＊→文学作品を教材とした授業実践報告や文学教材研究関連の論文）

1. 単行本(学術誌の特集)

「特集・日本文学協会第60回大会報告テーマ：いま、(文学)をどう学ぶか？」『日本文学』55巻3号(2006年3月)

「特集・文学教育の転回—（読む）とはどういうことか—」『日本文学』55巻8号(2006年8月)

「特集・物語はどこへ？—アニメ・マンガ・活字—」『日本児童文学』（2010年7・8月）

2. 学会誌・大学紀要論文(五十音順、同著者の場合は、発表年代順(古→新))

＊有賀千佳子(1997)「『意識化』の手段としての映像教材」『日本語学』16(9)－特集 視聴覚による話しことば教育、東京：明治書院、1997-08、23-33頁

＊池田庸子(2003)「『学習者』から『読み手』へ—日本語教育における Extensive Reading の試み—」『茨城大学留学生センター』1号、45-54頁

＊池田庸子(2004)「外国語教育における文学教材の役割」『茨城大学留学生センター』2号、茨城：茨城大学、2004-02、25-33頁。

＊池田庸子(2005)「日本語教育における文学教材：国語教育における文学教材論を参考に」『茨城大学留学生センター』3号、2005-02、25-34頁。

＊池田庸子(2006)「上級日本語学習者のための読解教材—芥川龍之介『羅生門』教材化の観点—」『茨城大学留学生センター』4号、2006-02、23-31頁。

上橋菜穂子(2010)「多様な才能が奏でるもの—『精霊の守り人』と『獣の奏者』のアニメ化に関わって—」『日本児童文学 56(4)』（特集 物語はどこへ？—アニメ・マンガ・活字）、東京：小峰書店、2010-07、50-53頁。

＊江田すみれ・飯島ひとみ・野田佳恵 [他](2005)「実践報告 中・上級の学習者に対する短編小説を使った多読授業の実践」『日本語教育』(126)、東京：社団法人日本語教育学会、2005-07、74-83頁

＊王佑心(2014)「『日本童話選読』授業を通しての日本語学習者の＜主体的読み＞に関する一考察—『注文の多い料理店』を中心に—」『台湾日語教育學報』22号、台湾：台湾日語教育學會、2014-6、238-265頁

＊岡本佐智子(1998)「上級文章表現授業への試み—リーディング 一冊の長編小説を主教材として—」『日本語と日本語教育』26号、東京：慶應義塾大学、1998-03、55-72頁

＊岡本佐智子(1999)「小説を主教材に使う—上級読解授業例—」『月刊日本語』1999年5月号、東京：アルク、24-31頁

小原律子(2008)「日本語教育における学習素材としての映像メディア—映画・テレビ番組の教材化—」『倉敷芸術科学大学紀要』13、205-214頁

＊狩野不二夫(1999)「外国人に日本文学を教えることの意義—ヴィクトリア大

- 学の現代文学講座の実践から」『留学生教育』4号、厚有出版、1-10頁
- 北澤 尚(2007)「文学の文法:文法形式に着目して文章の理解を深める試み」『東京学芸大学紀要 人文社会科学系I』58、東京:東京学芸大学、1-7頁
- * 絹川早苗(1989)「早稲田上級教科書を使ってー特に文学作品を扱うー」『講座 日本語教育 第24分冊』、東京:早稲田大学、102-115頁
- * 工藤陽子(2008)「文学作品を教材とした読解クラスにおける取り組みー谷川俊太郎の詩での実践を中心にー」『同志社大学 日本語・日本文化研究』第6号、京都:同志社大学、2008-04、31-45頁
- 熊野七絵・廣利正代(2008)「『アニメ・マンガ』調査研究ー地域事情と日本語教材ー」『国際交流基金日本語教育紀要』4号、埼玉:独立行政法人国際交流基金、2008-03、55-69頁
- 熊野七絵(2010)「日本語学習者とアニメ・マンガ:聞き取り調査結果から見える現状とニーズ」『広島大学留学生センター紀要』(No. 20)、広島:広島大学、2010-03、89-103頁
- 熊野七絵・川嶋恵子(2011)「『アニメ・マンガの日本語』Web サイト開発:趣味から日本語学習へ」『国際交流基金日本語教育紀要』7号、埼玉:独立行政法人国際交流基金、2011-03、103-117頁
- 熊野七絵(2012)「日本語教育におけるアニメ・マンガの活用のためにーマドリッド日本文化センター事例報告ー」『国際交流基金日本語教育紀要』8号、埼玉:独立行政法人国際交流基金、2012-03、185-191頁
- 国際交流基金(2011)『海外の日本語教育の現状ー日本語教育機関調査2009年ー(概要)』、2011-03、下記のリンク先を参照(2014-11-22検索)
(http://www.jpfi.go.jp/j/japanese/survey/result/dl/survey_2009/gaiyo2009.pdf)
- 呉 承和(2011)「大学における第二外国語の日本授業へー試案ー映像教材およびアニメの使用ー」高職外語群科中心(台南高商)電子報第47期(<国立台南高商知識管理平台>からアクセス、2014-11-22検索)。
http://210.59.19.199/mediafile/epaper/japan_10011/class.pdf
- 小菅健一(1998)「コミックメディア論 試稿:“言語芸術”と“映像芸術”の融合」『山梨英和短期大学紀要』32号、山梨:英和短期大学、1998-12、1-14頁
- 小菅健一(2006)「《言語映像》と《映像言語》による表現論の結節点:押井守論の前提として」『山梨英和大学紀要』5号、2006-12、1-14頁
- * 小林由紀(2010)「教室活動における新たな読解授業の試み」『台灣日本語文學報』27号、台湾:台灣日本語文學會、2010-06、357-380頁
- * 小林由紀(2013)「台湾の学習者が用いる読解ストラテジーの研究ー文学講座受講者を対象としてー」『台灣日語教育學報』(21号)、台湾:台灣日語教育學會、2013-12、136-165頁
- 財団法人交流協会(2010)『2009年度台湾における日本語教育事情調査 報告書』、東京:交流協会
- * 竹口智之(2003)「読解教材を一斉授業において行うことの意義ー上級クラス、小説『鞆』を例に」『教育学研究紀要』49(2)、744-749頁
- * 立川和美(2008)「日本語学習における随筆テキストを用いた読解指導:文学的文章の導入として」『流通經濟大學論集 43(3)』、2008-12、147-156頁
- * 土谷桃子(2007)「山本周五郎『雨あがる』を読む:日本語・日本文化研修留学生対象授業『文学から見た日本』の試み」『岐阜大学留学生センター紀要』2006、岐阜:岐阜大学、2007-03、3-17頁
- * 董英玉・三上勝夫(2003)「日本語学習者に対する文学作品の読み方指導の研究」『北海道教育大学紀要(教育科学編)』54巻1号、2003-09、1-12頁
- * ドラージュ・土屋浩美(2008)「グローバル時代における海外での日本文学の

- 教え方:総合的日本語教育の実践に向けた一案」『大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」活動報告書 平成19年度 シンポジウム編』、2008-03、158-163頁
- 中村愛人(2004)「英語教育における文化教材としての文学作品の意義」『広島大学大学院教育学研究科紀要2』(文化教育開発関連領域)52号、広島:広島大学、2004-03、115-119頁
- * 萩野実美(2007)「日本のまんがとアニメー日本語教材としての可能性」『拓殖大学日本語紀要』第17号、東京:拓殖大学、123-130頁
- * 坂東(丸尾)実子(2007)「〈鳥〉の表現でたどる日本近代文学史:超級文学日本語の試み」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』33、東京:東京外国語大学、2007-03、191-204頁
- 藤原 顕(1989)「文学作品の指導における作品構造と学習者の解釈活動の関係について:作品レベルコードモデル」『教授学の探究』(7)、北海道:北海道大学教育学部教育方法学研究室、1989-03、69-82頁
- * 牧野成一(2008)「日本語・日本文化教育とアニメー『千と千尋の神隠し』の場合」畑佐由紀子編『外国語としての日本語教育 多角的視野に基づく試み』、東京:くろしお出版、61-81頁
- * 三門 準(1995)「文学作品の教材化ー宮沢賢治『注文の多い料理店』を例にー」『日本語教育研究』30号、東京:長沼スクール、1995-12、135-145頁
- * 三門 準(2003)「視聴覚的手法を用いた文学教材の利用」『日本語教育研究』45号、東京:長沼スクール、2003-08、1-12頁
- 森川結花(2009)「文学作品をテキストとした上級学習者用読解教材の開発と実践」甲南大学リーディング・チュウ太2009ワークショップ(口頭発表)2009-10、配布資料のPPTスライド。以下のリンク先からアクセス。
http://basil.is.konan-u.ac.jp/chuta/morikawa_slide20091003.pdf
- 森川結花・永須実香・春名宣明・北村達也(2010)「日本語読解学習支援サイト“tutor.bunko”の構想と開発:総合的な技能養成を目指した方向性とそのコンテンツ」『甲南大学情報教育研究センター紀要』9、2010-03、全21頁。
 (掲載先(紀要)の通し頁数は未記載のため、引用部分を示した頁数は論文本体の頁数)
- 矢崎満夫(2009)「アニメを素材とした日本語学習活動『アニメで日本語』の開発:「アニメーション」のティーチング・ストラテジーに着目して」『静岡大学国際交流センター紀要』3、静岡:静岡大学、2009-03、27-42頁
- * 山路奈保子(2006)「文学作品を利用した上級日本語教育の試み:異文化理解促進のために」『比較社会文化研究』19号、福岡:九州大学、89-94頁
- 山中正樹(2006)「「地獄変」私論:〈語り〉の詐術/〈語り手〉の裏切り」『桜花学園大学人文学部研究紀要』8、2006-3、240-233頁
- 山本欣司(2007)「芥川龍之介「蜘蛛の糸」を読む」『弘前大学教育学部紀要』98、青森:弘前大学、2007-10、1-9頁
- * 吉田正信・山本雅子(1993)「日本語教材としての短編小説ーその意義と芥川龍之介「手巾」教材化の観点ー」『愛知教育大学教科教育センター研究報告』17号、愛知:愛知教育大学、1993-03、27-35頁
- * 吉田正信・山本雅子(1994)「日本語教材としての短編小説ー樋口一葉『十三夜』教材化の観点と構想ー」『愛知教育大学教科教育センター研究報告』18号、愛知:愛知教育大学、1994-03、137-144頁
- * 吉田正信・山本雅子(1995)「日本語教材としての短編小説ー志賀直哉『城の崎にて』教材化の観点と構想ー」『愛知教育大学教科教育センター研究報告』19号、愛知:愛知教育大学、1995-03、247-254頁
- * 林 雪星(2007)「教室のなかで読む『蠅』について」『台湾日本語文学期』

22号、2007-12、359-378頁

* 林 雪星(2012)「教室で読む『城の崎にて』—学習者の死生観について—」
『東吳日語教育學報』38号、2012-01、123-148頁

付録（1）台湾の大学日本語学科における日本文学関連のカリキュラム

（本調査結果は東吳大学日本語学科4年生李宜君さんに協力していただき、2010 学年度と 2011 学年度各大学HPで提供されたカリキュラム情報のオンラインサイトを調査対象に2012年3月10日現在に実施され、作成されたものである。なお、関連科目が開設されていない場合は斜線で表す。各大学名（中国語表記）は順不同。また、稿者の再調査結果によって、2014年11月現在大学名・学科名の合併再編などによる異動も併記しておく。）

学校名	相關課程名		
東吳大學日本語文學系	日本故事選	日本小説選讀	日本名著選讀
台灣大學日本語文學系	日本童話選讀	日本近現代文學選讀	日本文學名著選讀
靜宜大學日本語文學系	日本兒童故事選 (日本兒童文學)	日本近代小説選讀 日本現代小説選讀	日本近代名著選讀
台灣首府大學應用外語學系 日語組	日語繪本與 童話故事賞析	日本現代文選	日本名著選讀
輔仁大學日本語文學系		日本文學名著選讀	日本近現代文學
淡江大學日本語文學系	日本名著選讀[一]A/日本名著選讀[一]B 日本名著選讀[一]C/日本名著選讀[一]進 A 日本名著選讀[一]進 B		日本名著選讀[二] 日本名著選讀[二]進
世新大學日本語文學系		日本現代文學	日本現代女性文學
東海大學日本語文學系		日本近現代文學賞析	台灣日語文學
中國文化大學日本語文學系		日本近代文學	日本名著選讀
高雄第一科技大學應用日語 系		日本近現代文學導讀	日本名著選(99) 日本名著選(100)
文藻外語學院日本語文系 (2013.9より外国語大学に昇格)		日本名著選讀(專) 日本現代文選(專)	日本小説選讀(技) 日本名著賞析(技)
台中科技大學應用日語系		日本現代文選讀	日本名著選讀
慈濟大學東方語文學系日文 組		日本名著選讀	日本近代文學選讀(99) 日本近現代小説(100)
樹人醫護管理專校應用日語 科		日文名著選讀	日文名著賞析 (未列出作品)
大仁科技大學應用外語系日文組		日本現代文選	日文名著選讀
中山醫學大學應用外語學系 日文組	日本故事選	日本文學導讀 (未列出作品)	
銘傳大學應用日語學系	日本童話選讀	日本文學研究	
中華大學應用日語學系	日本故事選	日本名著選讀	
興國管理學院應用日語學系	日本故事選(98)	日本名著選讀(98)	
元智大學應用外語學系		日本文學概論	
政治大學日本語文學系		日本名著選讀 B-99 日本名著選讀 B-100	
高雄餐旅大學應用日語系		日本文學欣賞	
屏東商業技術學院應用日語系 (2014.8より屏東国立大学に再編)	日本名著賞析(内容夾雜故事、古典、現代文學作品)		
致理技術學院應用日語系		日本小説選讀(日) 日本小説選讀(夜)	
義守大學應用日語學系(所)		日本文學作品導讀	
長榮大學應用日語學系(所)		現代日語小説選讀	

文学関連授業科目未開設の大学：開南大學應用日語學系／明道大學應用日語學系／大葉大學應用日語學系／真理大學應用日語學系／康寧大學應用日語學系／南台科技大學應用日語系／景文科技大學應用日語系(2012年8月より応用英語学科と合併し、応用外国語学科に再編)／吳鳳科技大學應用日語系／修平科技大學應用日語系／環球科技大學應用外語系／和春技術學院應用外語系日語組／南榮技術學院應用外語系日語商務組／東方設計學院應用外語系日文組／育達商業科技大學應用日語系(2013年8月より育達科技大學に改名)／高苑科技大學應用外語系日文組／稻江科技暨管理學院應用外語學系(2012年8月より学科閉鎖)

日三C<日本小説選讀>文學授業に関するアンケート調査

アニメ化された文学映像教材の導入について

親愛の同事、您好！

この調査は、日三Cの文学授業導入のアニメ化教材の意見、希望を調査し、授業改善に活用することを目的として実施しています。調査結果は、授業改善に活用させていただきます。ご協力をお願いいたします。

1. 基本資料：

2. 性別 ☐ 男 ☐ 女

3. 年齢 ☐ 4歳以上 ☐ 5歳以上 ☐ 6歳以上 ☐ 7歳以上 ☐ 8歳以上 ☐ 9歳以上 ☐ 10歳以上 ☐ 11歳以上 ☐ 12歳以上 ☐ 13歳以上 ☐ 14歳以上 ☐ 15歳以上 ☐ 16歳以上 ☐ 17歳以上 ☐ 18歳以上 ☐ 19歳以上 ☐ 20歳以上 ☐ 21歳以上 ☐ 22歳以上 ☐ 23歳以上 ☐ 24歳以上 ☐ 25歳以上 ☐ 26歳以上 ☐ 27歳以上 ☐ 28歳以上 ☐ 29歳以上 ☐ 30歳以上 ☐ 31歳以上 ☐ 32歳以上 ☐ 33歳以上 ☐ 34歳以上 ☐ 35歳以上 ☐ 36歳以上 ☐ 37歳以上 ☐ 38歳以上 ☐ 39歳以上 ☐ 40歳以上 ☐ 41歳以上 ☐ 42歳以上 ☐ 43歳以上 ☐ 44歳以上 ☐ 45歳以上 ☐ 46歳以上 ☐ 47歳以上 ☐ 48歳以上 ☐ 49歳以上 ☐ 50歳以上 ☐ 51歳以上 ☐ 52歳以上 ☐ 53歳以上 ☐ 54歳以上 ☐ 55歳以上 ☐ 56歳以上 ☐ 57歳以上 ☐ 58歳以上 ☐ 59歳以上 ☐ 60歳以上 ☐ 61歳以上 ☐ 62歳以上 ☐ 63歳以上 ☐ 64歳以上 ☐ 65歳以上 ☐ 66歳以上 ☐ 67歳以上 ☐ 68歳以上 ☐ 69歳以上 ☐ 70歳以上 ☐ 71歳以上 ☐ 72歳以上 ☐ 73歳以上 ☐ 74歳以上 ☐ 75歳以上 ☐ 76歳以上 ☐ 77歳以上 ☐ 78歳以上 ☐ 79歳以上 ☐ 80歳以上 ☐ 81歳以上 ☐ 82歳以上 ☐ 83歳以上 ☐ 84歳以上 ☐ 85歳以上 ☐ 86歳以上 ☐ 87歳以上 ☐ 88歳以上 ☐ 89歳以上 ☐ 90歳以上 ☐ 91歳以上 ☐ 92歳以上 ☐ 93歳以上 ☐ 94歳以上 ☐ 95歳以上 ☐ 96歳以上 ☐ 97歳以上 ☐ 98歳以上 ☐ 99歳以上 ☐ 100歳以上

4. 学年 ☐ 1年 ☐ 2年 ☐ 3年 ☐ 4年 ☐ 5年 ☐ 6年 ☐ 7年 ☐ 8年 ☐ 9年 ☐ 10年 ☐ 11年 ☐ 12年 ☐ 13年 ☐ 14年 ☐ 15年 ☐ 16年 ☐ 17年 ☐ 18年 ☐ 19年 ☐ 20年 ☐ 21年 ☐ 22年 ☐ 23年 ☐ 24年 ☐ 25年 ☐ 26年 ☐ 27年 ☐ 28年 ☐ 29年 ☐ 30年 ☐ 31年 ☐ 32年 ☐ 33年 ☐ 34年 ☐ 35年 ☐ 36年 ☐ 37年 ☐ 38年 ☐ 39年 ☐ 40年 ☐ 41年 ☐ 42年 ☐ 43年 ☐ 44年 ☐ 45年 ☐ 46年 ☐ 47年 ☐ 48年 ☐ 49年 ☐ 50年 ☐ 51年 ☐ 52年 ☐ 53年 ☐ 54年 ☐ 55年 ☐ 56年 ☐ 57年 ☐ 58年 ☐ 59年 ☐ 60年 ☐ 61年 ☐ 62年 ☐ 63年 ☐ 64年 ☐ 65年 ☐ 66年 ☐ 67年 ☐ 68年 ☐ 69年 ☐ 70年 ☐ 71年 ☐ 72年 ☐ 73年 ☐ 74年 ☐ 75年 ☐ 76年 ☐ 77年 ☐ 78年 ☐ 79年 ☐ 80年 ☐ 81年 ☐ 82年 ☐ 83年 ☐ 84年 ☐ 85年 ☐ 86年 ☐ 87年 ☐ 88年 ☐ 89年 ☐ 90年 ☐ 91年 ☐ 92年 ☐ 93年 ☐ 94年 ☐ 95年 ☐ 96年 ☐ 97年 ☐ 98年 ☐ 99年 ☐ 100年

5. 授業 ☐ 1年 ☐ 2年 ☐ 3年 ☐ 4年 ☐ 5年 ☐ 6年 ☐ 7年 ☐ 8年 ☐ 9年 ☐ 10年 ☐ 11年 ☐ 12年 ☐ 13年 ☐ 14年 ☐ 15年 ☐ 16年 ☐ 17年 ☐ 18年 ☐ 19年 ☐ 20年 ☐ 21年 ☐ 22年 ☐ 23年 ☐ 24年 ☐ 25年 ☐ 26年 ☐ 27年 ☐ 28年 ☐ 29年 ☐ 30年 ☐ 31年 ☐ 32年 ☐ 33年 ☐ 34年 ☐ 35年 ☐ 36年 ☐ 37年 ☐ 38年 ☐ 39年 ☐ 40年 ☐ 41年 ☐ 42年 ☐ 43年 ☐ 44年 ☐ 45年 ☐ 46年 ☐ 47年 ☐ 48年 ☐ 49年 ☐ 50年 ☐ 51年 ☐ 52年 ☐ 53年 ☐ 54年 ☐ 55年 ☐ 56年 ☐ 57年 ☐ 58年 ☐ 59年 ☐ 60年 ☐ 61年 ☐ 62年 ☐ 63年 ☐ 64年 ☐ 65年 ☐ 66年 ☐ 67年 ☐ 68年 ☐ 69年 ☐ 70年 ☐ 71年 ☐ 72年 ☐ 73年 ☐ 74年 ☐ 75年 ☐ 76年 ☐ 77年 ☐ 78年 ☐ 79年 ☐ 80年 ☐ 81年 ☐ 82年 ☐ 83年 ☐ 84年 ☐ 85年 ☐ 86年 ☐ 87年 ☐ 88年 ☐ 89年 ☐ 90年 ☐ 91年 ☐ 92年 ☐ 93年 ☐ 94年 ☐ 95年 ☐ 96年 ☐ 97年 ☐ 98年 ☐ 99年 ☐ 100年

6. 授業 ☐ 1年 ☐ 2年 ☐ 3年 ☐ 4年 ☐ 5年 ☐ 6年 ☐ 7年 ☐ 8年 ☐ 9年 ☐ 10年 ☐ 11年 ☐ 12年 ☐ 13年 ☐ 14年 ☐ 15年 ☐ 16年 ☐ 17年 ☐ 18年 ☐ 19年 ☐ 20年 ☐ 21年 ☐ 22年 ☐ 23年 ☐ 24年 ☐ 25年 ☐ 26年 ☐ 27年 ☐ 28年 ☐ 29年 ☐ 30年 ☐ 31年 ☐ 32年 ☐ 33年 ☐ 34年 ☐ 35年 ☐ 36年 ☐ 37年 ☐ 38年 ☐ 39年 ☐ 40年 ☐ 41年 ☐ 42年 ☐ 43年 ☐ 44年 ☐ 45年 ☐ 46年 ☐ 47年 ☐ 48年 ☐ 49年 ☐ 50年 ☐ 51年 ☐ 52年 ☐ 53年 ☐ 54年 ☐ 55年 ☐ 56年 ☐ 57年 ☐ 58年 ☐ 59年 ☐ 60年 ☐ 61年 ☐ 62年 ☐ 63年 ☐ 64年 ☐ 65年 ☐ 66年 ☐ 67年 ☐ 68年 ☐ 69年 ☐ 70年 ☐ 71年 ☐ 72年 ☐ 73年 ☐ 74年 ☐ 75年 ☐ 76年 ☐ 77年 ☐ 78年 ☐ 79年 ☐ 80年 ☐ 81年 ☐ 82年 ☐ 83年 ☐ 84